



市長メッセージ

「被爆75周年原水爆禁止世界大会(広島大会)」が開催されるに当たり、メッセージをお送りいたします。

1945年8月6日、広島は人類史上最初の原子爆弾投下により街は一瞬にして廃墟と化し、多くの尊い命が奪われました。かろうじて生き延びた被爆者は、心身に深刻な傷を負いながらも、自らの体験を語り、「こんな思いを他の誰にもさせてはならない」との思いと平和への願いを訴え続けています。

しかし、世界にはいまだ1万3千発を超える核兵器が存在し、核兵器廃絶への動きも停滞しています。さらに、新型コロナウイルスという人類の新たな脅威に立ち向かうために、世界的な連帯が重要となる一方で、自国第一主義の台頭を始め、国家間の排他的、対立的な動きが緊張関係を高めています。

そうした意味から、人類が二度とこうした壮絶で悲惨な体験をすることがないよう、「絶対悪」である核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現を訴えるため、新型コロナウイルス感染症の影響により制約がある中、オンラインにより「被爆75周年原水爆禁止世界大会(広島大会)」を開催されることは誠に意義深く、その取組に対し深く敬意を表します。

終わりに、本大会の御成功と皆様の今後ますますの御健勝と御多幸を心よりお祈りいたします。

令和2年(2020年)8月6日

広島市長 松井 一 實